

# 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

報告日 2025年 11月 13日

P T A名		静岡県立静岡聾学校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	22人				

## 1. 使用状況

寄贈物品名	パスアラウンドマイク (補聴援助システム)
使用学年及び人数	59人 (本校生22人 通級指導生32人 乳幼児教育相談5人)
使用頻度	学校行事、学部集会、授業の内容に応じて適宜使用
使用状況	<p>・本校では、補聴援助システム「ロジャー」を使用して、集団や騒がしい環境でも聞き取りやすい音環境を作っている。授業では、タッチスクリーンマイクという送信機を教師が首にかけ、子供たちは、人工内耳や補聴器に受信機をつけており、教師の声がダイレクトに届くようにしている。</p> <p>パスアラウンドマイクをタッチスクリーンマイクと接続することで、2台目の送信機として使用し、授業や集会、行事で話し手が複数いるときに使用している。また、ICT機器のスピーカー部分にパスアラウンドマイクを置くことで、音楽や英語の音声も聞き取りやすくしている。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>・式や学習発表会などの行事では、マイクスタンドにパスアラウンドマイクをつけ、タッチスクリーンマイクやデジマスターと組み合わせて使用することで、補聴援助システムと放送機器を1つの機械で使用している。</p> <p>・話し合い活動では、児童生徒の机の上にパスアラウンドマイクを置くことで、お互いの声を環境に左右されずに聞きやすくしている。</p> <p>・タブレットやプロジェクターのスピーカーの横にパスアラウンドマイクを置くことで、教師の声も機械からの音声も聞き取りやすくなっている。</p> <p>・幼稚部では、幼児が前に出て発表するときにパスアラウンドマイクを使用することで、発表者の声が聞きやすくなっただけでなく、マイクがあることでしっかり声を出して発表しようとする意識も高まった。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>・パスアラウンドマイクを誰でも気軽に使用できるよう、使い方を教員間で共有し、更に活用の場を広げる。</p> <p>・子供たちが機器の使用に慣れ、聴こえ方についてより意識を高め、交流や卒業後の進学先、就労先等での活用につなげていきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>・聴覚障害のある子どもたちにとって、広い場所や騒がしいとき、機器からの音声は聞き取りにくいいため、今回の寄贈で補聴援助システムが充実したことで、様々な場面で聞き取りやすくなり、自分から聴き取って、生き生き活動する子どもの姿につながっていると感じる。</p>

## 2. 活用の様子

授業中は、教師が親機となるタッチスクリーンマイクを使用し、発表者がパスアラウンドマイクを使用して発表することで、教師の声も発表者の声も互いに聞き取れるようにしている。

話し合い活動や集団活動では、メインの教師や司会の児童生徒が親機であるタッチスクリーンマイクを使用し、発表者がスタンドに設置したパスアラウンドマイクの前に立って話をしたり、パスアラウンドマイクを机の上に置いて意見を言うようにしている。



始業式、終業式では、司会者や発表者がパスアラウンドマイクを使用し、デジマスターというスピーカーとも接続し、ロジャーを使用していない人にも音を大きくして伝えることができるようにしている。

学習発表会では、体育館に常設していたループシステムよりも音質の良いロジャーシステムを使用した。ステージの各所にマイクを設置することができ、子供たちの声を観客に届けることができた。

